

FS検討結果の評価と対応(案)

中間報告

FS検討結果の評価と対応(案)各モデルにおける主な評価と課題

		弘前市モデル	埼玉県モデル	横浜市モデル
理想的なモデル案		<p>ケース1:FIT売電 水素製造事業と発電事業を公設・民営 (水素製造コストを半減できたとして)</p>	<p>ケース2:水素製造を公設・民営、ガス発電・水素供給を民設・民営</p>	<p>事業スキームA:民設・民営 ケース2:200kW発電</p>
課題	【技術面】 (技術の成熟度や開発段階に関して)	水素製造技術の継続的な開発および技術確立が必要(特に、水素製造単価の低減を目的とした、触媒の循環利用やプロセス改良など)	中長期的な水素製造単価の低減を目的として技術的な取組みが継続的に必要(たとえば、FIT利用だけでなく電力場内利用との組合せでも事業採算性が確保できるようにする、など)	バイオガス精製および複合発電システムの低コスト化に向けた技術的な取組みが継続的に必要 低コスト・高効率な水素ガス精製・供給(出荷)設備の採用検討が必要
	【制度面】 (各省庁等の補助金や規制等に関して)	技術開発(実用化)を支援する制度が必要 下水由来水素の環境性の高さを踏まえた普及促進施策の検討が必要	下水由来水素の環境性の高さを踏まえた普及促進施策の検討が必要	技術開発(実用化)を支援する制度が必要 下水由来水素の環境性の高さを踏まえた普及促進施策の検討が必要
	【経済面】 (事業の採算性に関して)	現在のコスト水準では採算性の確保は難しいため、水素製造単価の低減が必要(200円/Nm ³ -H ₂ 以下を目指す)	採算性向上に向け、建設費・維持管理費の継続的な低減が必要	現在のコスト水準では採算性の確保は難しいため、建設費・維持管理費の低減が必要
	【体制面】 (事業スキームに関して)	オフサイトステーション(民間事業)への水素運搬事業について、事業スキーム(体制)が必要	民間事業者(物流等)への水素供給形態および事業スキーム(体制)が必要	オフサイトステーション(民間事業)への水素運搬について、事業スキーム(体制)が必要 熱需要家への熱運搬について、事業スキーム(体制)が必要
	【需給面】 (水素利用状況に関して)	廃熱利用による融雪や空調などの熱需要が必要	物流拠点および周辺地域(公共公益施設等)における需要が必要	民間事業者への水素供給や熱供給の需要が必要(マルチエネルギー利用)